

(別紙)

建設技術研究開発助成制度評価委員会における審査結果を踏まえた、
平成１７年度 建設技術研究開発助成制度（基礎・応用研究開発公募）の
採択課題（新規８課題、継続４課題）は以下のとおり。

研究開発課題名（概要）	交付申請者名	交付予定額
リアルタイム高度水防災情報提供システムに関する 研究開発 （概要）中小河川流域を含む任意の河道地点での河川流量を、リアルタイムで予測し、またダム放流量や貯水池水位も加え、洪水予測情報の提供に寄与することを目指す。	京都大学防災研究所 社会防災研究部門 助教授 立川 康人	22, 770 千円
高活性炭素繊維を用いた自然風駆動の効率的 NOx 浄化装置の開発 （概要）高活性炭素繊維の優れた NOx 除去特性と繊維状であることを利用して、自然通風を利用する、つまりエネルギー使用なしに沿道 NOx 濃度を 20～50%削減できる、大気浄化装置を開発する。	豊橋技術科学大学 工学部 エコロジー工学系 教授 北田 敏廣	18, 720 千円
中間土からなる人工島・護岸構造物の耐震性再評価 ー液状化・揺すり込み変形抑止の地盤強化技術の開発ー （概要）埋立地・海上人工島は、砂でも粘土でもない「中間土」からなり、その耐震性評価には曖昧な部分が多い。予想される海洋型地震の特性も踏まえて耐震性を評価し、強化必要箇所の抽出と強化技術の確立を通じて、より災害に強い人工地盤を創生する。	名古屋大学大学院 工学研究科 社会基盤専攻 教授 浅岡 顕	22, 230 千円
エレベータ付加による住宅ストック活用技術に関する 研究開発 （概要）国土交通省が開発した階段室型エレベータをさらに進化させた、既存建物に合理的にエレベータを付加する技術を開発し、バリアフリーへの配慮が十分でない住宅ストックの有効活用を実現する。	首都大学 東京都市環境学部 都市環境学科 教授 深尾 精一	15, 951 千円
密集地区の面的整備に資する既存建物付加型防耐火補強技術の開発 （概要）今後１０年間で、木造密集地区における最低限の安全性を確保するため、従来の更新型整備ではなく、「更新・修復並存の整備」手法が可能となる、既存建物の耐震改修を兼ねる防耐火補強技術の開発を目指す。	早稲田大学理工学部 建築学科 教授 長谷見 雄二	26, 910 千円

研究開発課題名（概要）	交付申請者名	交付予定額
沖縄における流域経営と赤土流出抑制システムの促進方策に関する研究 （概要）生態系の保全・再生の方策を沖縄の自然条件に適合する赤土流出抑制手法の確立を中心として研究し、それを踏まえた持続可能な流域経営のための支援方策を検討する。	芝浦工業大学 システム工学部 環境システム学科 教授 松下 潤	13,316 千円
エネルギー自律型都市代謝システムの開発を通じた生活環境の改善 （概要）生活環境の改善を目的に、自然エネルギーと燃料電池の統合的利用により、徹底した省エネルギー、自然エネルギー利用を図った、エネルギー自律型代謝システムシステム技術の実用化を目指す。冷暖房の省エネルギー化（50%削減）を達成しながら、快適で良好な生活空間の創造を実現する。	北海道大学大学院 工学研究科 空間性能システム 専攻 教授 絵内 正道	14,040 千円
納豆菌群を封入した多孔型ブロックによる水質改善技術の開発 （概要）納豆菌群の中でも耐アルカリ性の高い有用微生物群を培養・抽出し、それを通水性の高い多孔型コンクリートブロックに封入することに成功している。現在小規模な水質浄化に利用されているが、それを有機汚濁の進んだ大規模な水域に応用し、高効率の水質浄化システムを開発する。	九州大学大学院 総合理工学研究院 流体環境工学部門 教授 松永 信博	27,450 千円

【継続応募課題】

研究開発課題名（概要）	交付申請者名	交付予定額
持続型都市基盤形成の為にプレキャスト・プレストレス技術の開発 （概要）外乱時に損傷を予め設置したエネルギー吸収要素に集中させて主要な構造部材を無損傷に保ち、長期的には構成部材の交換・再利用及び構造物自体の構成変更が可能な積み木的な循環型構造形式をプレキャスト・プレストレス技術を用いて開発する。	京都大学工学研究科 教授 渡邊 忠夫	17,043 千円
油汚染土壌の効率的・原位置バイオレメディエーション技術の開発 （概要）油分で汚染された土壌を、嫌気・好気条件での連続バイオレメディエーション技術を適用することにより、これまでは分解困難であるとされている油に含有される種々の汚染物質を分解・浄化する技術を開発する。	京都大学大学院 工学研究科附属 流域圏総合環境質 研究センター 助教授 清水 芳久	18,525 千円
交通エコポイントシステムに関する研究開発 （概要）ITS世界会議及び愛知万博で、交通エコポイントシステムの社会実験を実施し、実用化に向けて課題を解決することにより、同施策による環境負荷低減の効果を算出し、TDM施策を提案する。	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授 森川 高行	20,710 千円
河川堤防の調査、再生と強化法に関する研究開発 （概要）都市流域の河川堤防を速やかに客観的に診断するシステムを構築し、強化が必要な堤防に対しては最適な堤防強化・再生構築法を確立することにより、より災害に強い安全な生活空間・社会資本を創生する。	京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 教授 岡 二三生	13,585 千円

以上